

入力値	計算結果	FIT単価
年間平均風速 (m/s) = 6	ハブ高さ平均風速値(m/s) = 6.00	55 (税抜き)
ワイブル係数 K = 2.25	空気密度ファクター = 0%	59.4 (税込み)
標高 (m) = 24	発電力平均(kW) = 6.79	
ウインドシア Exp. = 0.180	発電量(1日あたり)(kWh) = 162.9	
計測装置高さ (m) = 20	年間予想発電量(kWh) = 59,463	3,532,115 /年間平均
ハブ高さ (m) = 20	月間予想発電量 = 4,955	294,343 /月間平均
乱流係数 = 0.1%	発電稼働率 = 90.0%	

**ワイブルパフォーマンス計算**

Wind Speed Bin (m/s)	Power (kW)	Wind Probability (f)	Net kW @ V	対象機 CF-20
1	-0.10	3.03%	-0.003	-0.099
2	-0.10	6.85%	-0.007	-0.097
3	0.00	10.32%	0.000	-0.003
4	0.82	12.76%	0.105	0.827
5	2.64	13.79%	0.364	2.649
6	4.67	13.37%	0.624	4.683
7	8.03	11.78%	0.946	8.053
8	13.33	9.51%	1.267	13.368
9	17.28	7.05%	1.218	17.328
10	19.94	4.82%	0.961	20
11	19.94	3.04%	0.606	20
12	19.94	1.77%	0.352	20
13	19.94	0.95%	0.189	20
14	19.94	0.47%	0.094	20
15	19.94	0.21%	0.043	20
16	19.94	0.09%	0.018	20
17	19.94	0.04%	0.007	20
18	19.94	0.01%	0.003	20
19	19.94	0.00%	0.001	20
20	19.94	0.00%	0.000	20
2011, BWC	Totals:	99.85%	6.788	

年間または毎月の平均風速を使います。  
 ワイブル係数(K)が判らない場合は、K=2(内陸)、K=3(海岸)、K=4(島と貿易風あり)を使います。  
 標高は、海面上からの高さです。  
 ウインドシア指数は、0.18が最もよく使用されます。ラフな地形または高い乱流が考慮される場合は、0.22を使います。非常にスムーズな地形または開放水域では、0.11を使います。  
 風速計の高さは、平均風速データにおける高さです。(NEDOの500mメッシュデータの高さは30mです)判らない場合は、10メートルを使います。  
 タワー高さは、支柱の高さです。例えば、24メートル等。  
 乱流係数は、乱流、場所による変動、および他の、性能に影響するファクターで、性能を低下させます。一典型的な乱流係数はすでにモデルに組み入れられています。  
 限定的な障害による平らな敷地では、0.00 (0%)を使います。  
 開放水域の障害の無いクリアな場所では、-10.0(マイナス10%)を使います。  
 丘または山地の地形では、5.0から15.0(5%から15%)を使います。

結果:  
 ハブ高さ平均風速値は、ウインドシア指数により修正され、ワイブル分布の風速計算(ワイブルパフォーマンス計算)をするのに用いられます。  
 空気密度ファクターは、海水面レベル性能からの減少です。  
 発電力平均は、風車の平均的な瞬時発電力です。  
 発電量(1日あたり)は、1日24時間で生み出される平均的なエネルギーです。  
 年間予想発電量及び月間予想発電量は、1日あたりの発電量を使って計算されます。  
 稼働率は、風車が幾らかでもエネルギーを発生している時間比率になります。



本発電量シミュレーションプログラムの結果は、CF20JAPAN Limitedのパワーカーブを元に当社の計算方法に基づき発電量を予測したものです。従いましてお客様の発電量を保証するものではありません。またこのデータは複製、配布、改修等はできません。